

第3学年道徳学習指導案

日 時 平成18年10月13日(金)
児 童 藤沢町立新沼小学校 3学年
男3名 女7名 計10名
指導者 松 好 貴 美 子

- 1 主題名 「親友ならどうする？」 2 - (3) 友情・信頼
- 2 資料名 「絵はがきと切手」(出典 学研 「みんなのどうとく 3年」)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

指導項目2 - (3)は「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」である。中学年においては、気の合う友達同士で仲間をつくる傾向がある。自分達の世界を確保し、楽しもうとするのである。健康的な仲間集団を育成するためにも、友達と互いによく理解し、信頼し、助け合えるよう指導していく必要がある。

低学年においては、特に身近にいる友達と仲良く活動し、助け合うことの大切さを指導されてきている。その発展として中学年では、仲良く行動するだけでなく、信頼や友情という心のつながりを育てることが大切である。

(2) 児童について

学級の児童のほとんどは、保育園からの同じメンバーで過ごしてきており、みんなで誘い合っで学級全員で遊ぶこともめずらしくはない。友達関係でも遊び仲間としては概ね良好である。

しかし、児童同士の中で目に見えないポジションや力関係がつかれ、時折、その力関係が働いて対等な関係が保たれなかったり、今の関係をこわしたくないために友達に遠慮したりすることもある。自分の損得や感情ではなく、本当に友達のためにという思いで行動するまでには至っておらず、また、友達が自分のために思ってくれていることに気づかないこともある。

友達と仲良くしようという意識はあるので、目に見える仲良しから一歩進んで、友達を信頼する気持ちや、ともに高まることのできる心のつながりを育てていきたい。

(3) 資料について

本資料の主人公ひろ子は、転校した仲良しの友達正子から絵はがきをもらう。しかし、それは定形外郵便物で70円未納不足であった。このことを正子に教えるべきという兄の考えと、教えないほうがいいのではないかという母の考えとに揺れながらも、ひろ子は教えることを選択する。

友達だからこそどうすればよいのか思い悩むひろ子の心の動きをもとに、友達を想う気持ちや友達との心のつながりを深く考えるのに適した資料であると考えられる。

(4) 指導にあたって

主人公のひろ子の心の動きをもとに考えていく。絵はがきをもらったひろ子の喜びは、児童の実体験と重ね合わせやすく共感できるであろう。70円の未納不足について、教えるべきという兄の考えと、お礼だけという母の考えの間で思い悩むひろ子の気持ちに十分に共感させたい。

兄と母の考えを掘り下げていくために、役割演技で兄(児童)と母(教師)に分かれ、それぞれの意見を考えていく。

教えることを決心したひろ子の気持ちを考えることで、信頼の上にある友達を想う気持ちを感じとらせたい。また、はがきの返事を書くことで、ひろ子と一体化して自分自身を表現することができると思う。

兄と母、どちらの考えも間違いではなく、どちらも友達のことを思っていることであることを踏まえた上で、教えてあげることが友達のためであることに気づかせていきたい。その際、どちらを選ぶかだけに終わらせず、ひろ子と正子の間にある友情や信頼感がひろ子を動かしたということも感じ取らせたい。

4 本時の指導

(1) ねらい 友達との心のつながりの大切さを自覚し、友達を信頼しようとする気持ちを育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の心の動き	指導上の留意点
<p>導入</p> <p>価値への方向づけ</p> <p>3</p>	<p>1 手紙をもらったときの気持ちについて話し合う。</p> <p>手紙やはがきをもらったことがありますか。手紙をもらってどんな気持ちになりましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年賀状をもらった。 ・うれしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙をもらったときのうれしい気持ちを思い起こさせ、資料への導入を図る。 ・定形外郵便の理解を助けるために実物を提示する。 通常はがき 50円 定形外 120円
<p>展開</p> <p>価値の追求把握</p>	<p>2 資料「絵はがきと切手」を読み、ひろ子の心の動きをもとに話し合う。</p> <p>正子から美しいはがきをもらって、ひろ子はどんな気持ちになったでしょう。</p> <p>兄と母の意見を聞いて、迷っているひろ子の気持ちを考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正子の「美しい景色を見せたい」という気持ちがうれしい。 ・転校しても私を忘れないでいてくれる。 <p>教えたほうがよい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らせないとまた同じ間違いをしてしまうだろう。 ・正子のためにならない。 <p>教えずによい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしよう。 ・嫌われたくない。 ・正子が傷つく。 ・本当に正子のためになるのはどちらだろう。 <p>教えずによい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正子はわざとではない。 ・正子の気持ちを台無しにしてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひろ子が何に迷っているかに気をつけて聞く」という読みの視点を与え、範読する。 ・はがきをもらってうれしいひろ子の気持ちに共感させるため、転校した正子はひろ子と仲良しだったことをおさえておく。 ・「かんげきした」という言葉からひろ子の喜びをつかませたい。 ・ひろ子の迷いを考えるために、兄（児童）・母（教師）の役割演技を通し、それぞれの主張を深めていく。 ・なぜ教えたほうがよいのかを考えさせるために、「お金を返してほしいから？」「正子が傷ついてもいいのか？」等の補助発問を用意しておく。 ・どちらが正しいのかを問うのではなく、兄も母も友達のことを思っただけの意見であることを踏まえた上で、何が本当に「友達のため」になるのかを考えさせたい。 ・ここでは、どうしたらよいのかという結論はつけない。

	30	70円たりなかったことを教えようと決心したひろ子の気持ちを考えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・知らせても正子だったらきっとわかってくれる。 ・このままだと、正子は他の人にも同じことをしてしまいかもしれない。 ・正子のために知らせよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知らせようと決心した背景には、正子との友情や信頼関係があったことをおさえさせる。
価値の主體的自覚9	3	ひろ子が書く正子への手紙の内容を考える。 ひろ子は正子に料金がたりなかったことを、どのように伝えるでしょう。ひろ子になって手紙を書きましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・はがきの大きさが違うと、切手の値段も違ってくるんだよ。これからは気をつけてね。 ・定形外のことを覚えておくとこれから役立つよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵はがきのお礼や、もらってうれしい気持ちは予め学習シートに書いておき、児童には料金が不足しているところのみ考え書かせる。
終末3	4	自分の生活を振り返り、友達について考える。 「友達がいると」に、続く言葉を考えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・うれしい 楽しい 励ましてくれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返らせ、にあてはまる言葉を考えることで、友達がいることのよさを感じさせたい。

5 板書計画

友だちのために	教えてあげたほうが：	正子 <ul style="list-style-type: none"> ・ひろ子に見せたい。 ・よろこばせたい。 70円たりない	教えなくても…	絵はがきと切手
<ul style="list-style-type: none"> ・知らせてもきっとわかってくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正子のため。 	ひろ子 <ul style="list-style-type: none"> ・うれしい。 ・やっぱり友だちだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知らなかっただけ。 ・わざとではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知らなかっただけ。 ・わざとではない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・正子は定形外のことを知らないだろう ・他の人にも同じことをするかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろ子のためにわざわざと送ってくれたのだから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知つたらいやな思いをするだろう。 	